





毛吹草題目録

秋部

初秋

七夕

一葉

桐

秋柳

秋納涼

秋堂

秋蟬

秋扇

露

霧

萩

朝顔

木槿

女郎花

桔梗

萩

蘭

薄

芙蓉

花葉

秋草花

白録

五ノ下

五ノ上



芭蕉

相撲

躍

鵠毒

秋田

虫

鹿

鷹

色鳥

鴨

鶉

鷓鴣

秋鷲

鴉

月

名月

十二夜

菊

葛

楓

色象

名木如象

木實

忍鮎

お象鮎

雜鮎

毛吹草卷第六

鮎

初秋

目は秋風<sup>やう</sup>多<sup>し</sup>くも<sup>も</sup>安知

秋風を世に<sup>か</sup>れ<sup>た</sup>る<sup>も</sup>秋風<sup>も</sup>弘永

文月の上書<sup>も</sup>も<sup>も</sup>乃<sup>も</sup>秋<sup>も</sup>宜重

七夕

七夕に<sup>も</sup>初<sup>も</sup>也<sup>も</sup>野<sup>も</sup>も<sup>も</sup>教<sup>も</sup>意<sup>も</sup>教

雨天ありきれい

涼系<sup>も</sup>雨<sup>も</sup>乃<sup>も</sup>出<sup>も</sup>る<sup>も</sup>二<sup>も</sup>星<sup>も</sup>重頼

ち<sup>も</sup>き<sup>も</sup>の<sup>も</sup>あ<sup>も</sup>る<sup>も</sup>七夕<sup>も</sup>に<sup>も</sup>あ<sup>も</sup>る<sup>も</sup>弘永

たかふとて織や新入の春谷らと  
宿ゆん七夕はめや梅のめ宗治  
のふれとてもまの早は春谷  
七夕の織布はくせ天川 織糸

一葉

一葉のそとに桐葉と梅の那 雲友  
一葉の舟舟花梅や露の玉 永次  
大まけの梅の二葉や流るら 康耳  
秋風の舟や一葉の舟あらし 重雄  
一葉の舟舟花梅や梅の那 一正  
一葉の舟舟花梅の舟あらし 元弘

一葉や網舟とたに梅の糸 秋葉  
一葉の舟舟花梅や梅の那 永次

桐

風まの舟舟花梅の糸 秋葉  
桐の舟も流るらと一葉の舟 永次  
舟舟花梅の舟あらし 永次

柳

舟舟花梅の舟あらし 永次  
秋風の舟や一葉の舟あらし 永次  
舟舟花梅の舟あらし 永次  
舟舟花梅の舟あらし 永次

うきこ林に花より露の柳登り水  
○葛葉やうれし柳も并安昌三

秋洞涼

涼のそよぶさたは秋の風 香重  
夏あけまきと秋の風 長好

秋雲

来に活てけある雲も上野雲 言行  
長尾まうも秋の雲 雲侯  
来は火ひる秋の雲 雲侯

秋蟬

秋の蟬の音は月夜の雨の音 昌玄  
涼の音の琴久蟬と中 安利

秋扇

秋の扇の音は月夜の音 昌玄  
扇の音の音は月夜の音 昌玄

露

露の音は月夜の音 昌玄  
露の音は月夜の音 昌玄

追善寺

追善寺の音は月夜の音 昌玄  
追善寺の音は月夜の音 昌玄

霧のまやふらふらと行かぬ秋の夜更

霧

是の又霧とて夜もも風袋重頼  
霧の海より白路もはひり  
富士の嶺よりおぼろの雲海重方  
風の白く吹くも雲はまら垣  
大海を手に抱てせく雲舟の直

萩

萩の海字の萩は萩の萩は昌之  
たきよれ世のきも萩の風心  
浪萩のあどお物も浪の夢秀重

秋風の口まもするも萩の夢らり  
まろふて風や萩のそら  
浪里丹風終るし萩の声 宗帝

朝顔

朝顔も兵士の討と花の畫成政  
あさる海の花の夢やあさる  
何さふや一日晴乃あやの級  
朝顔のあさるあさる風かす赤  
襟やるるあさるの良ま真  
物真のあさるあさる萩の

朱襟



一年に廿七秋のたかぶ 秀重  
秋風やけはづくに花のた衣 宗隆  
秋の錦あもむしん 宗隆  
踏ゆい足もとあはれ小菊 宗隆  
小菊よはらうとあはれ 宗隆  
仙人やまよりえ白き花む 重方

蘭

山錦の金蘭の花 弘永  
咲かぬとぬぐとる花 昌玄

とみまにあつちあつち 康庸  
らり果る枝いびやくえ者 宗朋  
白りぬく一とらぬの花 宗隆  
花はあつちとぬぐとる花 宗隆  
からばまのひらう花 宗隆  
蘭の人の又けり花 昌玄

薄

あつちの手と切之も花 正利  
花よあつちのつが花 宗隆  
あつちも長袖をぬが花 宗隆  
花よあつちのつが花 宗隆  
花よあつちのつが花 宗隆











鴨

人の又ふねか鴨やとあひえり  
遠へ一鴨つき網の目方量春可

鶺鴒

真野れうらな

あけのきまのうら鶺鴒が  
ちの鶺鴒のうら鶺鴒のうら  
声もあまの秋の目のうら  
鶺鴒もくまのうら鶺鴒  
都人特くのうら鶺鴒

ふたきびのうら鶺鴒 肥あ

鶺鴒

○鄭公居すのあ鶺鴒の夢宗房  
稍る鶺鴒の目をめふ夕々那 重貞

秋鷹

目の肉も鈴をけりる小鷹の 秀重  
とばやくもあや刺刀鶺鴒

鶺鴒

芳那て福えらひもふ石が 弘長  
たみもくはもあや水衣徳元

月

五月園ヤニ乃宮宿あり秋月昌意  
 浪なみそへ八輪ちひい遠とほまきや水骨正章  
 龍りゆうよめ慈じ也いふよりそ月 重頼  
 軟か介け村字むらぢ月つきさいるは乃の字 弘水  
 天あま乃のさのすし物ものよ三さん武ぶ骨ほね 光真書  
 おんもはそぬおん月乃良一正  
 大おほきおのあもや海うみは月つきの影 貞盛  
 春はるは東あづまのあもは備ひさん秋あきの月つき定治  
 かいつまや尋たづねておん夕ゆふ月つき兼かみ津つ元  
 月つき代しろ乃の熱あつまもよ川がは らる  
 ぬ影かげは二人ふたりはまよの一人ひとり亦また弘水  
 月つきの八はち天あま乃のさは鎖さり成なり喜よろこ可し

月つき乃の船ふね沖おきとよいらるる光あき政次  
 ねり帆ふねめと樹きや月つきは永治  
 兼かみもあきんかわけおん水みづの 西にし也  
 月つきとさるる今いま乃のらや五いつち填つみ天あま 西にし信のぶ  
 水みづ小こ影かげらりおん月つき乃のら 定時  
 月つき乃の影かげはすか入まる内うち 道二  
 月つき乃のれ材まをきけつる層かさね乃の 玄竹  
 曲まが山やま乃のあもや月つき乃のら重かさね 政せい云い  
 重かさね乃のらあもや月つき乃のら 玄けん教きやう  
 小野おの乃の備ひりて  
 五いつ乃のらあもや月つき乃のら 昌意  
 思おもはるあもや影かげといへ月つき乃のら

月小様ささまにほくえんめれ字が 徳宗  
 上とまろみふまじりやとえあ骨が 乃二  
 三さのや下しものうのうの 定春  
 飛づのういばありに住月繫が 結壽  
 廣ひろ沢のいけうのひさ月が 宗房  
 様さまのまの月も並な持もの用よさ 重正  
 月つきのけのままさるるや不ふ老らう門もん 静安  
 月の輪りん八角はちかくはへり桶おけの水みづ 光孝  
 出て月つき只天ただの目のままれ 光孝  
 月つき糸いととほるままあや波なみの糸いと 重貞  
 出て居ゐ人の心こころやなほ母はは 弘水  
 月つき束たばめく月つき束たばえきさるる 玄祐

張りの錢別

張はりりのががももれれよより月つき 徳宗  
 月つきのけハ波なみの折をりりの境さかいれ 月  
 母ははらふらのりし雲くもやああ日ひ  
 中なか月つきハ水みづ子こ流ながれるりり考か ぬ政  
 表あはれれててみるみるるる月つきわ境さかい 定時  
 月つき中なかよよわわりり際さかい紙し紙し 白しろ  
 片かたははちちももちち少すくなるなる月つき賀が 正利  
 文ぶん月の字じささりりみみぬぬぬぬ 善ぜん  
 拘か抄してて多た月つきをを格かくとと外が 永治  
 濁にごりりややららるる月つきのの息いきはは 吉政  
 〇夜よなるなる發はりりるる月つき 正徳









名月

今宵月まろくろくまろく静夜  
三光海浦のめし月吐き情重頼  
うそ月の影が今宵の月空昌意  
名をうろ海浦のめし月吐き情重頼  
まごみやまごみやまごみや

安藝藝國のこもこも

三光の中國一そ藝藝國の  
くろくまろくまろくまろく  
月代のなかのりんくろくまろく  
名月集のめし月の影を  
月空まろくまろくまろく

あひの月九乃字まろくの海浦  
まごみやまごみやまごみや  
名月吐きまろくまろくまろく  
月吐きまろくまろくまろく  
名月の月空まろくまろく  
まごみやまごみやまごみや  
まごみやまごみやまごみや  
まごみやまごみやまごみや  
まごみやまごみやまごみや  
まごみやまごみやまごみや  
まごみやまごみやまごみや  
まごみやまごみやまごみや

月よひのぬびやせき宝珠を澄  
美露の朝よのなむの  
その名ふたはつる月真 光る  
名月を餘の物えをえん 宗彦  
清なるあまの月や馬水精 御前  
わじしき月をあやむ天 定時  
月よひ水精梅乃をあふか 安朝  
月乃の六空まをくつこふい 重光

十二夜

花のけし女と若れ月か糸 悠然  
月く此中より粟乃の月念一  
名をゆるあまの月や安達 秀重

任者よ海のりく

美てあるも月も寶乃る女並 悠然  
枝大直の今月月毛の馬若か 悠然

菊

形るまよせ六揚き記の酒酒昌玄  
あふくこむ菊は園のや花鴨 正重  
人く此意をいりて菊樹 弘永  
命うとく入る菊やちり生 重頼  
方とあげの枝はきあし菊乃園 昌玄  
夕の味は五耀乃星の菊は花 正重  
菊酒の下はとく人園外 秀重  
一本とゆひは菊もやとく星 用之





おき

あれたらふも朝のふも重頼  
 竜田河より揚ぐらふおき赤  
 赤うたてんふ茶の河も由氏  
 おきするはハハハハ茶忠也  
 山南河の揚ぐらすおき重  
 山北やまはれ揚ぐらすおき元弘  
 水うらまにまにまに河のおき  
 河河河河河河河河河河河

通りかけの河も深て落おき  
 足ぬたも急もあるおき信安  
 紅あつた山から赤熱おき  
 赤粉砕りおきと揚ぐらふおき  
 西乃甘みろおきや猿の尻  
 赤あつた山から赤熱おき  
 赤あつた山から赤熱おき

木實

おきするはハハハハ茶忠也  
 山南河の揚ぐらすおき重  
 山北やまはれ揚ぐらすおき元弘  
 水うらまにまにまに河のおき  
 河河河河河河河河河河河

赤まゝと障子と返松栂粒 政昌

まゝ首貞粒も千万からりふふ 志心

枝かゝるゆるく推の貞車 貞盛

象かゝるから西栗くかゝる棹 貞義

まはるくハも杖もまゝカレ 意敏

まはるくハ市をたてふ杖 道二

え栗の杖かゝる杖なるも 山徳もくハまの杖るハ

実をつひま紫ハ専て伐系 水栗亦なるもくハ

水栗亦なるもくハ 柳の角 同

柳の角もあはれくハとまゝ子 草

女松男松もまゝにけりて 穴をりてあるも

魚草ハ四にハのちり 忍 鮎

為かゝる出さるゝ鯨もまゝに 意敏

とまゝにハよるゝびり 鮎の鮎 徳元

紅葉鮎

とまゝにハ水けりて 宣之

江列子本にまゝに 重頼

しはるハぬくハぬくハぬく 昌玄

水産ハ魚ハ魚ハ魚ハ魚ハ 定時

水産ハ魚ハ魚ハ魚ハ魚ハ

水産ハ魚ハ魚ハ魚ハ魚ハ

水産ハ魚ハ魚ハ魚ハ魚ハ

水産ハ魚ハ魚ハ魚ハ魚ハ

水産ハ魚ハ魚ハ魚ハ魚ハ

水産ハ魚ハ魚ハ魚ハ魚ハ

水産ハ魚ハ魚ハ魚ハ魚ハ



下る内水此秋もわらふ餓 重方  
柵まりながらあめお素餅 宗朋  
酒あめみみ酒もあめ餅 酒元  
酢とみみ酒あめ餅の飯をよ 一正

### 雜秋

にわたり書や理未だ 梵字一味  
お早見やとておめめ揚焼茶 宗隆  
足抱もなまらけし まらけ茶外 道藏  
水玉もまらけや 林の河原我 酒元  
伊勢方りて

大窪の酒や伊勢羅林の飯 曰

一睡のあめめ酒やまらけ 酒元  
お早見も書や理未だ 宗隆  
橋筋のうらもまらけの茶の湯外 宗隆  
切茶も酒の茶や林の飯 酒元  
舞あめみみ酒あめ餅の飯 酒元  
お早見の酒元  
お早見の酒元  
お早見の酒元



廻文之句

冬目録

五ノ十五

冬

初冬

枯木くつきのやああんんきき此こゝ神かみ世よ 酒さけ元もと  
 餅もちいいふふおおたたるる神かみのの世よ 餅もち元もと  
 十じゅうああららびびててややままこことと此こゝ神かみ世よ 酒さけ元もと  
 亥がいのの子こ餅もちももききののややああららびびたた神かみ世よ 酒さけ元もと

時雨

末すえのの世よもも儀ぎ多たししととどどろろ河か留りゅう 重かさね  
 ううそそ思おもふふるる雨あめのの世よもも儀ぎ多たししととどどろろ河か留りゅう 重かさね  
 雨あめのの世よもも儀ぎ多たししととどどろろ河か留りゅう 重かさね

五ノ十六



天高く地も久しくはるる程 光る  
なく焔の目録よりさうしめり 昌  
きき目とさうしめり 曆の霜柱 弘  
き海のみきも 妙建の法は 重  
焔の焔 焔よりさうしめり 家次  
の焔の鬼瓦ぬを 化粧の 俊安  
の焔や 我下草ぬおおひ 吉貞  
もお天よるすぞ白き焔の 重方  
霜程さうしめり 焔の目録 主供  
明園もさうしめり 霜程 正家  
とすしめり 焔の焔や 霜柱 弘永  
おお程さうしめり 焔の焔 道二

約律の焔もさうしめり 焔の焔  
焔の焔の焔もさうしめり 焔の焔  
け月乃るぬもさうしめり 焔の焔  
焔の焔の花乃るぬもさうしめり 重正

霰

焔乃世もさうしめり 焔の焔  
をさうしめり 焔の焔  
焔乃の焔もさうしめり 焔の焔  
焔乃の焔もさうしめり 焔の焔  
焔乃の焔もさうしめり 焔の焔  
焔乃の焔もさうしめり 焔の焔

追善

焔乃の焔もさうしめり 焔の焔









風の姿をあらわす物わねの音道二  
かきくれくろくろくわきくろく  
繪本乃の巻せく

○かゝる地をいづる音も白く重頼  
緯母の綿乃たぐりて音水は  
けしきのふも音もあつた  
撫えておはせむじ山は中如  
神垣乃は帯乃し竹の音  
白雲もも音いづれ兼是は満  
○音を花とらふは角のふらふ  
まをなまなけぬや音の月  
はらの音いづれは音のま音重

海内お氣の晴おろり雪乃庭光と  
雪小竹そり橋くろく川も亦光成  
音からや音あふいづれ物清  
山よりまは音そははれ海の音光音  
もれ音も音や音佛一日  
ちまふは音紫あ音の音花け音光

氷

水神のあがさおん氷う那宗朋  
我鬼の目と音あつた音  
水精乃橋とかけたる氷くれ秀重  
白張のあつた音あつた音  
雪のほておのいづる氷ふ弘永

澗水や下すはさる波候 昌玄  
 浪たぬ川乃水や風まじ 道二  
 水がぬれ甲にぬる水乃 正利  
 〇多桶おふかとさびる水乃 秋廣  
 御門あえぐる氷乃那 春奇  
 笠おふえ水とさるぬ水乃 正家  
 樋乃泉封を付くるはら 玄敏  
 厚氷とらるとさる水 宗治  
 〇雨ちりて地乃あふる水 宗治  
 地乃分氷や剣波乃の 体名  
 水けりた強き氷の衣くれ 孝三  
 眞も皆冬ありする水乃 俊統

陸水乃金具ありしは 新口  
 氷乃初はえつけ乃焼くれ 西甫  
 あくとさるも厚き水乃 可亦  
 壺水でとたてを巻氷面 重方  
 桶なるともに水さる水乃 弦的  
 氷つる川のおりても白ぼ 吾城  
 みきはぬ川よほさる水乃 宗仁  
 多積乃のんえぬ水乃 水  
 氷たる池乃焼乃ぬる水 光有  
 冬は身も水とさる茶 弘水  
 冬は身ぬれぬ水乃 同  
 陸水とせじる水乃 玄註

水産物と巻と紋也水産物 政  
銀屏とくろい墨の氷外 利忠  
川邊より川にけり氷れ 氏政  
衣まひる川力中の中 氏利  
もたつ池のあやもり抱 祖翁  
むらさきなぞくもも厚味 昌玄  
天もこれぞれ髪も厚味  
國へふあつちも水の産川 梅壺

冬月

とら月よきもあつちも厚味  
池のよきついで月の影も 重方

埋火

焼物の埋む火花は白ひ外 重方  
室もとくも廟をつふ火外 定徳  
だてねくも肌ゆりも火桶 正家  
あつち火の消さるるし衆の 後心  
埋火をけかぬ猫の引給亦 重頼  
ちり火よ近つちあつちあつち 弘永  
きまゝ衆の風穴もくも火 忠也  
きやもも直もくもこのひも 宗玄  
細炭やをけかぬてもあつち 宗房  
いかりも入けかぬてもあつち 重友

炭竈

白粉もや炭海も雪は文 重方

炭竈すすかまは只山姥やまばば火桶ひおけは 徒た知ち  
すますまはれよめは子こもけもけけの 貞まこと光あきら

水鳥

昔むかしのこつこつ巻まき乃の形かたちはる甲かぶら 近依ちかよ  
ななももはは云いににななれれぬぬ時ときはは 舟ふね後のちにに  
智ち田でん乃の名なもも千ち二に種たねのの友とも海うみ 弘ひろ永なが  
芦あし鴨鴨ととよよとといいふふはは新あらた理り 一ひと正ただ  
料理料理してして人ひとももななふふもも 光あきらのの  
鴨鴨ももととななくく水みづににおおりり湯ゆがが 不ふ葉は  
水みづ井い乃の昔むかし久く養やうれれ一ひと番ばん 昌あきら玄げん  
浪なみ風かぜとといいふふはは伴ともりり友とも結むす 正ただ景かげ  
せせはは水みづ川がはあありりにに鴨鴨乃の多おほきき 群ぐん鳥たむらひ

水みづももららははのの数かずはは舟ふね給たまははれれ 弘ひろ則すなはちち  
水みづ鳥とり乃の本もとのの名なもも波なみはは花はな 弘ひろ虎こ  
多おほききはは舟ふね板いたとと舟ふねもも 正ただ利り  
雞まじ乃の昔むかし久く外とほはは鴨鴨乃の亦また 弘ひろ永なが  
浪なみ水みづももららははのの名なもも 日ひ  
水みづ鳥とり乃の名なもも 弘ひろ正ただ  
とといいふふはは乃の名なもも 弘ひろ朋とも  
水みづはは者もの乃の名なもも 弘ひろ永なが  
水みづもも乃の名なもも 弘ひろ永なが  
鷹たか

芦鴨の産もむらさきの場も同

### 祈樂

まねの又祈のあふむと祈も亦光有  
舞の千代也きも祈の可重直

### 冬菊

冬咲のそけう也菊の花忠景  
冬咲もあや十歳乃海草の心友  
冬菊もきき錦もるわけはの心平

### 冬梅

あけ夜まきれも用冬の花忠景  
冬咲もおとあけおと花の光有  
冬咲の花も鏡もる香佛 守法

冬よりもまたおもむくれも成政

### 冬鶯

冬なるとめもききや花忠景  
冬よりえんさ浦次も春分改云

### 細代

信安 信安  
信安 信安  
信安 信安  
信安 信安

### 歳暮

寅の年も尾計の女も忠景  
寅大は小花の女も忠景の伴伯  
老と賀もよみてはる年也 守法  
鬼やふもふらまも忠景の守法

○もらひまの境もてしやまは善光を  
一十年の招ハもねの親りか一木  
終るとしむじや月日胤等重方  
もへま六行ももふとどるのホ正ま

親の遊ユキ

○たごまふ善も似奈れ音か重頼  
あふま何らるへ年の矢鹿か貞澄  
善分おらももまらおまふか健宗

晦クハ

今日ちや幸れ給るは玉委日

田舎へり人の顔シヤン

年にもま入りもなぞては日

尺八り年られ竹のトよまらま友  
幸れ矢の筆シヤク乃ソコ産ウツまらま  
善分の榕ヒヤクも直ナ矢乃根ネ水ミヅ依  
脯ウラ月乃ツキかレくマらシたカもシ終ハ嘉

年用トシヨウ立春

年用ハ行ユキ長ナガてまま目メ外ソト先サキ有  
身ミのまマへヘ直ナの内ウチ也ヤとトまマりリけケ元元弘  
直乃内ナウチのまマへヘ陰陽インヤウ和合ワガフ系ケイ永治  
とト此コノらラ之ノまマへヘ乃ノ矢ヤのノ善ゼン目メがガ成セイ政  
立春リシュンおオやヤありアリへヘらラもモ日ニチにニ宗房  
幸サイれレ何ナニのノ善ゼンもモ御ミコトやヤひヒのノ家カらラ政セイ云

雑ザツ冬

深平フカヘイハ古器コキ久乃クノカ母ハハカ能ノ器キ  
冬フユ来キテハ電デンめりメちチ芽メガガやヤ花ハミミ

宇治ウジノ花ハ車クルマウウリリクク

清スミククおおやや宇治ウジ十ジュウ帖テウの紙シ袋サイ能ノ家カ

うウノノ中ナカやヤ母ハハ子コ綿ワタ子コ乃ノ兄ケイ才サイ舟フネ庵アン

千チ早サ振フリ紙シ子コ袋サイめメりリもモ湯ユ京キョウ康カウ耳ミミ

志シククヤヤ十ジュウ六ロクまマまマ子コ餅ホウ立タテ時トキ

親オヤジの追オウ善ゼン一イチ

をオ見ミ目メとト撫フまマはハ海ウミの枝エダ子コ昌マサ意イ

人ヒト乃ノ親オヤジの身ミ備ビらラもモあアらラふフ

大オホきキやヤ人ヒトのノいイ乃ノちチもモ梅ウメ月ツキ

のノれレ兒コ洞ドウとトりリもモ冬フユからカラもモあアらラふフ弘コウ永エイ

廻マワりリとトあアらラふフ

春

重貞

目メとトあアらラふフ梅ウメのノあアらラめメしシ重オモ貞ナカとト自ミ

梅ウメ乃ノ花ハナとト

重方

かカぶブむムきキをオもモそソやヤ母ハハにニ本ホへヘんンれレ

むムきキ

可赤

あアらラめメハハ咲サキむムめメ六ロク種シユとトめメりリかカ

正依

さサらラめメのノ花ハナよヨまマよヨ名ナハハ野ノ梅ウメ小コ

秀重

登ノボりリとトむムせセりリとトめメしシとトがガりリのノ心ココロをオ

菜ナをオせセりリ入イりリてテ

重長

かカぶブくクたタらラるルのノあアせセりリ菜ナたタらラるルのノ

貞義

花葉ついでまうりて花の水葉の

秀重

花の木の香やよもきの新の香

徳宗

けの  
新在家よて  
葉さむし香のやのまゆ新をよ

宗房

咲るもの花が花がくんの花が草一

二階咲の花と 重頼

○花のふふ軒の花の二階の花

重方

本はけりしまらりぬぬと様

春句

花の鈴すずなりきりきり花の繩

弘永

と花の首のまが水の花の酒

徳宗

おび目くの雲も山も花はな親おけ

同

水目張もろの香ももむすの

重供

名への花の香をよの志をたけ

重貞

白くの花のたぬいさあし花他

貞重

白くの花の香をよの志をたけ

徳宗

花の香をよの志をたけ

徳宗





月つきのまみ

宗勝

おのの子こ記したたりりたたりりたたりり

徳宗

咲さききののああののああののああののああ

同

中なかかののああののああののああののああ

重方

田たののああののああののああののああ

重教

ああののああののああののああののああ

徳宗

ああののああののああののああののああ

秋廻文

ああののああののああののああののああ

徳宗

ああののああののああののああののああ

曰

ああののああののああののああののああ

重頼

ああののああののああののああののああ

正章

ああののああののああののああののああ

重方

ああののああののああののああののああ

貞盛

ああののああののああののああののああ

秀重

徳家

下はるの白露つじし月乃友

る所の月を 若久

長月を信たよみた具津か

正直

皆かて死るう初雁う水南

徳家

まらるる月鳴もかきしこねねた

梅盛

幸のうじ善きうーるく康のき

徳家

中々咲花もさば草葉うね

同

見らるる花の如き花くれ花信

徳家

同

春に野乃林も垣野の後

同

まふまのたねは月よ母よ藤

宗茂

け垣むじうまうりん林う系

徳家

咲花かたぬらぬあま志およ帯の

重貞

けく紋よちかへおけと志あ

一正

もこれの舞う舞し葉の花か糸

梅盛

咲かるるまにまにまにう形か草

摘つのけいしをの種なでのあり池いのあり 重信

中ちの戦せどじらりらんんをを記きす 同

中ちのささのままのの子このの鴨鴨 同

おおのの推推 同

冬 題文

池いの皆皆鴨鴨のの浪浪乃乃景景 重頼

海うのの波波のの離離 同

長ちの寝ねりり鴨鴨のの女女寝寝 同

春はののふふののむむののここののささ 同

葉はのの枯枯ののままのの月月のの庭庭 重貞

日ひのの餅餅ををおおのの乳乳もも子子のの夜夜 同

乳ちもも吞のるるののままのの餅餅 同

むむええのの酒酒のの夜夜 同

春はのの花花のの夜夜 同

又或るより

あはげし屠蘇酒とぞと酒は

申まじふとてにあはれ給ひ

遠とほなる水みづ流ながれ花はなかんとふは代しろ

猶なほよのつらまはしのまんまの場ば

長ながまどとくく冬ふゆ去さげゆゆ壺かももは

右みぎへみるる

いいははちちるる . . . ちちははああひ

かかううままののしし . . . ちちままののれ

くくううひひままのの . . . ちちままののれ

ままのののの . . . ちちままののれ

長ながままのの . . . ちちままののれ

あはげし屠蘇酒とぞと酒  
申まじふとてに  
遠なる水流れ花かんふ代  
猶よのつらまはしの場  
長まどく冬去げゆ壺ももは  
右へみるる  
いちはちる . . . ちはあひ  
かうまのし . . . ちまのれ  
くうひまの . . . ちまのれ  
まののの . . . ちまのれ  
長まの . . . ちまのれ  
あはげし屠蘇酒とぞと酒  
申まじふとてに  
遠なる水流れ花かんふ代  
猶よのつらまはしの場  
長まどく冬去げゆ壺ももは  
右へみるる  
いちはちる . . . ちはあひ  
かうまのし . . . ちまのれ  
くうひまの . . . ちまのれ  
まののの . . . ちまのれ  
長まの . . . ちまのれ

折句の習冠

すすままののががれれしし

長ながね

透とほるるかかんんととるるああややままののああははげげしし屠蘇酒とぞと酒

すものゝら

日

於葉を抄りて此初の葉

句數之事

他者不知 二百十五

帝之住

脊可十七 昌意七十七

道壽三 依音十

道二共 宗阜一

宗儔一 如雲一

背眠一 道宅二

寸赤十一 玄竹四

利安一 再庵一

六廩一 宗寧一

改昌五 正依廿二



重次一	正包一	嘉治一	和通一	正成一
交勝一	賴定一	長好四	慶次一	貞勝一

場之垣

孝友女	道案一
宗二七	道穢二
了忠一	宗夕一
一正辛四	正南十六
貞繼六	宗治亦
	貞感亦

成安三	真之六
弘永百矣	感政八
宣春八	成政二
永次八	元弘六
由延二	正之五
安知四	長重五
一味二	重直三
吉次二	成良二
先忠二	正則二
重吉二	正次二
一利一	於害一
吉一一	信務一



感次一 嘉次一  
宣次一 宣之一  
治連一 富連一  
武壽一 永政一  
通教一

大坂之任

空存五 空康三  
靜壽五 安明四  
乞次三 西之一  
一光一 重周一  
重次一 務明一  
正信一 近依二  
利貞二

郡山之任

正武十 岑松二

大津之任

唐則一 宗連五

膳所之任

直之一 尚也一  
由生一

伊賀之徳

一木四

勢別山田之徳

利清六 宗仁四

玄心四 文性一

茂清三 宣徳三

延徳三 末吉三

重隆三 可徳二

光有卒二 正利二

玄家二 正徳二

金石二 祖翁二

光孝二 安清二

用久二 重次二

宗茂二 長昌二

西交二 祐宗一

國茂一 秋彦一

孝晴一 威親一

元儀一 易徳一

家儀一 威彦一

宣盤一 守種一

貞助一 家時一

共親一 弘喜一

宗流一 忠景一

滿安一	光成二
光貞一	光貞妻二
弘則一	弘院一
宗堯一	吉滿一
宗次一	後孝一
氏政一	懿的一
忠尚一	貞光一
文惟一	良傳一
政昭一	盛長一
光秀一	弘長一
末光一	正重一
資成一	正次一

清親一	常弘一
守任一	如心一
不業一	光英一
富次一	与一 三
子世一	兵城一
留城一	齡都一

同津之任

宗除五	盛政一
以一二	盛秀一
起貞一	

同和坂之任

吉弘六 加安一

白戸之任

德元五 玄礼二

利邑六 常久七

繁務三 康耳六

新口一 好務一

正矩一 重房一

元綱一

紀及若山之任

宗明十五 定時女

伊伯六 春庵二

正平八 良直一

務正一 知元一

秋國一

幡別姫路之任

孝澄八 利忠三

俊安一 重政一

友重一 利次一

庚伽二 政次一

因幡之任

康庸八

安藝之任

寛記二

越前之住

信安七

信全四

加賀之住

可理二

右之卯

紀伊一

丹波一

丹波一

美濃二

肥前三

白敷合二千句

地者二百六十人

毛吹草卷才七

春

○考乃事とと約る事ありぬ

田舎中も京あり花のまき立て

あしあつ山は丸山高人

○まき立ての事ありぬ

すべに葉張まのりかたあり

百歩乃御事コトとてまる元相

此よりく老もあまきなり

あつ山は丸山高人

試筆乃事とありぬ

あつ山は丸山高人

百廿二の方々を願うまゝあゝ

さしきくはれたのしゝきくはれた

年おの願ひありきふふ

たまふたはむしほひのあむた

夫余りーでるききなのあ

うまむさむかすの腰

あひとら長あよひの祈

き柳や花おなゝめ海物

枕もさ 借といふまゝのひ

まじりてはる人あむた

此のあゝ難波のきと見とた

国もあむたのあむた

花のはむたはむたのあ

ききくはれたのしゝ

ゆひもあむたのあむた

あむたのあむたのあ

たのあむたのあむた

耳はあむたのあむた

花はあむたのあむた

あむたのあむたのあ

響くはれたのあむた

あむたのあむたのあ

きくはれたのあむた

きくはれたのあむた

ワびく形登は鬼あぶみ後の庭

夏

鬼乃其あふるはくもるは  
花餅中らるるの賑百合を

もらあてかたもり日乃業

石草乃種水漬おおむあへく

橋渡あの大乃軽く海あて

川まの葉をさくもつあは

東を金輪はかやあすむ

みれつづ塔の上まてかあま

あもあゆかあ母のあゆ

の巻くおめまてつめり度な

あめこく死あえ繩のあそ

あははと波の精つひまへて

秋

世乃うん事いさくぬあま

山川ま物のさびるる鮎をあれ

あへくはか海ひくまの

あうん志むくはるる斬

年よ一夜の厚たこひそ

七夕ああは河あつ川のさく

と川原よ宿うらてねん

ら癢を七夕ばあてかきくらし

あゆむらぬら秋の湯なご

月を洗ひ乳ちみ物こそおあえ

まりぬ水猿うきぬいふあま

汗枕ても月をまきへけしん

ねとみ中と物とあまふ

あはぬての月あは陣前て

よへ垢汁こまき物にあ

あはぬのはおひへぬぬかぬ

あまあまのあまのあま

あまの汗よぬぬぬぬぬぬ

汗よぬぬぬぬぬぬぬぬ

あまひるあまもあまのあま

あまのあまのあまのあま

らげまらぬぬぬぬぬぬぬ

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま



他より志志の川門田のぼくみ付  
ワラきよはは猫ねこそとつづく  
秋の田のや海うみの奥ハ鮫しやうりて  
くまびら丹敷にとんせつころは  
あはよまのまもめり山やま越

冬

あまのたひらと夜よまの思ひの  
いであまのつらみの口もあてつ  
むらめりしめりたれつらみ剣羽  
一羽ハ甲かぶにあまの舟と  
佐野のまらまのり

弱とめて袖うちめりふたあまり  
難波なにわばきんよ何なにもま  
古家ふるやばは門かどあまの  
名なもあまもまま年としま  
丸まるもやや密ひそ乃の水みづあて合あま  
いざれとと祢ねめりんうれま  
あまびる火ひ桶おけままお命いのちゆま

春

恒吉つねきち乃のまま浦うらへる人ひと  
そりしれめり波なみの川がは三草さんそう  
つらまのままいいはま







山王の指りし事おんこまの  
難波江のありきしをいふ  
槽をなす一舟と云津の浦舟  
久く此雲の海を帯りし  
越お紙よりひる短冊  
栲ろの鶴を泳ぐあざま  
此の國のあましむるつら  
あまのあめお始てそ入  
あまのうらまうしき網の奥  
お入のまきれ程と思ひ  
うらと屏風の陰にまよひ  
じしうらまぬ越のしめり

さきこころれをりりの矢あり  
あめあつしきお屏風とし  
あつしぬ病の難と道う程  
うらびくまけしうらま合  
お入のうらまの苦ほし  
みらし此まん申程を踏む  
あもろ人とおいしうら  
まらまらまらあまのうらま  
酒あまのままぬ程をうら  
あつしあまのな程をうら  
のあまのあまのあまの  
あつしあまのあまのあまの

五ノ六十

清心草ありしはき弱き人

のやうくはあつてもやと名線サミヤクの音

松マツさへくゆりま松マツのゆい神カミ

夜ヨそつらんと思オモひ牧ウシ駒ウマ

右合百句

をそつらんを思ひ

濃物本家

七世